

平成29年4月1日

平成29年度 港区立赤坂中学校 学校経営計画

港区立赤坂中学校長  
高松 政則

義務教育の目的は、人格の形成を目指し平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた、心身ともに健康な国民の育成を期して行われるものである。このことを踏まえ、港区教育委員会の教育目標並びに、港区教育ビジョンに示される目指すべき子どもの姿「夢と生きがいをもち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する子ども」に基づき、「子どもたちが安全で安心して過ごすことができる学校づくり」「子どもたちが生き生きと楽しく学ぶことができる学校づくり」「保護者や地域に信頼される学校づくり」を学校経営の視点として質の高い教育を推進する。

教育の展開に当たっては、国や東京都の動向及び港区の施策、本校の児童の実態を踏まえた上で、教職員が一丸となって組織的かつ計画的に実施していく。また、保護者や地域の思い、願いを受け止め誠実に対応していく。

さらに、生徒が一日の大半を過ごす場である学校においては、常に危機管理体制を見直すとともに、どのような状況においても生徒たちの安全を確保していく。

## 1. 学校の教育目標

友情と活力にみちた赤坂中学校の伝統のもと、知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する。

- 「まなび」を大切にする
- 「こころ」を大切にする
- 「いのち」を大切にする
- 「とき」を大切にする

## 2. 目指す学校像

『生徒たちの夢と希望を実現させるために組織力を発揮する学校』

～すべての生徒との「かかわり」を大切に～

- 生徒も教師も笑顔あふれる互いの積極的な「かかわり」のある学校
- すべての教職員が愛情と使命感にあふれ、互いの温かな「かかわり」のある学校
- すべての生徒が夢を語り合える豊かな「かかわり」のある学校
- 赤坂小学校・中之町幼稚園、地域・関係機関との連携を深め、赤坂地区との「かかわり」を大切にする学校

## 3. 指導の基本となる5つの視点とオリンピック・パラリンピック教育

### (1) 学力向上【視点1】

- ①教科教室型システムの工夫と活用
- ②基礎・基本の徹底
- ③ICT機器(タブレットPC)の活用
- ④個々の生徒に合わせた個別指導の充実

各種学力調査や定期考査等の分析による授業改善と、ICT機器の積極的な活用により授業の工夫を図る。また、教科教室の利点を生かした教室環境の工夫と個に応じた指導による基礎・基本の徹底。

【目指す教師像】

- 教科の専門性を高めるため、研修に努めるとともに、教科教室の特徴を生かした指導の工夫をする教師
- 生徒理解に努め、コミュニケーションを大切にする教師

(2) 健全育成【視点2】

- ①規範意識の醸成
- ②心と体の健康づくり
- ③集団不適応生徒支援  
全ての生徒が集団の中で生き生きと輝くことができるように「躰」と「適応指導」を具体的に展開する。

【目指す教師像】

- 生徒の心の内面にかかわる力量をもった教師
- 生命の尊重に真摯に向き合う姿勢をもった教師

(3) 心の教育【視点3】

- ①自尊感情、規範意識の醸成
- ②自己指導力の育成
- ③道徳授業の充実  
将来をよりよく生きる意欲と実践力を育成する。そのために道徳の時間を充実させるとともに、各教科との関連を図る。

【目指す教師像】

- 道徳を生徒主体の時間とし、生き方についての自覚を深めさせ、道徳的実践力を育成する教師
- 道徳の時間の意義をふまえ、さらなる充実を図る教師

(4) 進路指導【視点4】

- ①キャリア教育の系統的实施
- ②職場体験等、体験的な学習の充実・工夫
- ③コミュニケーション能力の育成
- ④組織的な進路指導の展開  
キャリア教育の視点に立った「人間関係形成能力」「情報活用能力」「自己決定力」の育成を図る。職場体験学習等を通じた望ましい勤労観・職業観、コミュニケーション能力の育成。

【目指す教師像】

- 社会の情勢をふまえた情報理解と生徒・保護者への情報提供力を備えた教師
- 生徒・保護者とのコミュニケーションにより、信頼関係を構築する教師

(5) 特別支援教育【視点5】

- ①生徒の教育ニーズの把握
- ②保護者との信頼関係構築
- ③校内委員会の充実  
一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実のため、個々の生徒理解を基盤とした教育活動と、校内委員会の充実を図り関係機関と連携して取り組む。

### 【目指す教師像】

- 日常の適切なかかわりによる生徒理解と指導力をもった教師
- 特別支援に対する正しい知識と人権感覚をもった教師

### (6) オリンピック・パラリンピック教育

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催にあたり、今後3年間に渡り「オリンピック・パラリンピックの精神」「オリンピック・パラリンピック競技、障がい者スポーツ」「日本文化、国際理解・交流」「環境」等をテーマに、それぞれのテーマについて「学ぶ(知る)」「観る」「体験・交流する」「支える」という視点で教育活動に位置付け、系統的に学びを深める。

## 4. 中期的経営目標と方策(3年～5年後の達成目標)

### ○在籍生徒数の各学年20名規模の維持と確保

学校区小学校からの入学希望者確保と、区内小学校の児童・保護者への情報発信による生徒数の確保。

- ・教育ニーズの把握・・・児童・保護者向けの教育ニーズに対するアンケート結果を参考として、中学校教育に求める教育内容等を把握する。  
また、過去3年分の中学校合同説明会アンケートの内容を精査し、本校の教育内容の強みについてアピールしていく。
- ・特色ある教育の周知・・・地域教育力の活用、教科教室経営の充実、学力向上重点策の検討により、他校及び私立学校に勝る本校の教育力を学校ホームページ等を活用し広報していく。

### ○授業力・学級経営力の向上

新規採用教員、経験10年未満の若手教員の増加に伴い、校内OJTによる授業力の育成を計画的に行う。

- ・副校長を責任者として、主幹・主任教諭が役割を分担したピラミッド型の指導体制の確立
- ・模範となる授業を行う授業力のあるベテラン教員の授業を参観させ、また、ベテランから指導させることにより、教科が異なっても変わらない、指導技術の伝承等の研修体制の確立

## 5. 短期的目標と具体的方策

### ○幼稚園・小学校との連携の強化

赤坂アカデミーを通しての、幼・小中の円滑な接続を目指す。

- ・研究授業・・・3回(学期毎1回)

研究主題である「赤坂アカデミーにおける幼・小中一貫教育の推進」

～学びの継続・充実を目指して～の研究を推進するため、中之町幼稚園・赤坂小学校・赤坂中学校の3校(園)で学期に1回の研究授業を行い6年後の小中一貫教育校開設の準備を進める。

- ・部活体験

赤坂小学校児童を対象とした部活動体験を長期休業中に実施することで、より緊密な連携を図る。

(年1回以上)

- ・行事交流

児童・生徒会交流の他、小学生の児童が本校の校風をより理解するために、様々な機会をとらえ、交流活動を推進する。(年3回以上)

- ・授業交流

体験授業にとどまらず、出前授業など生徒・教員が小学校児童に中学校の様子を理解させるための交流活動を推進する。(年1回以上)

### ○学力向上

質の高い教育により「わかる」から「できる」を実感させる。

- ・教員による授業改善

全国学力学習調査・都学力調査・港区学力調査等各種の調査結果や定期考査の結果をもとに、分析結果の活用による授業改善を行う。

(各種調査・定期考査終了後)

- ・基礎・基本の確実な定着

放課後の自習場所の確保や定期考査前の質問教室の開催、長期休業中の補充教室の実施により、当該学年で学ぶべき学習内容の確実な定着を図る。また、到達目標を示したCAN-DOリストの活用によりきめ細かな指導を行う。

(毎日・定期考査期間・長期休業中)

- ・各種検定の奨励

英検・漢検・数検等各種検定の受験奨励により学習意欲の向上を図る。

(年間1回以上受検/人)

### ○本校教育活動の周知

本校の特色ある教育活動を積極的に広報することにより教育内容の理解を図る。

- ・学校だよりの配布

近隣の赤坂小学校に協力を依頼し児童・保護者あてに配布。また、中学校区の自治会等へ協力を依頼し、回覧板・掲示板等への掲載。(毎月)

- ・各種行事への参加依頼

運動会・学芸発表会・学校公開や地域協力行事など、本校を会場とする行事への参加を依頼し、地域の拠点となる学校づくりを行う。(行事毎)

- ・学校ホームページの活用

情報化社会の現在においては、インターネット等の活用による情報公開が効果的である。そのため、学校の様子・生徒の生き生きとした活動の様子を日々更新し、常に新しい情報を公開していく。(週3回以上)